

知事記者会見の概要

日 時：令和3年1月27日(水) 10:00～10:52

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「新型コロナワクチン接種総合企画課」の新設について

代表質問

- (1) 5本の柱の実現に向けた取組みと4期目の抱負について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 発表事項に関連して
- (3) 飛島への米支援について
- (4) 新型コロナウイルス感染症への対応について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

新型コロナの感染者数ですけれども、とうとうですね、世界では1億人を超えました。感染拡大が止まらないという状況です。また国内では、1月7日に緊急事態宣言が発出されまして、3週間、約3週間でございますけれども、新規の感染者数が若干減少の兆しはあるものの、高止まりの状況となっております。

県内では、昨日までに463人となっておりますけれども、このところ概ね落ち着いた状況となっております。しかしながら、昨日は5人の新規感染者が確認されたところであります。引き続き、感染の封じ込めにしっかりと全力を挙げてまいります。

医療現場がひっ迫するというのが、大変なことになって、やっぱり県民の皆様の命を守る上でもですね、医療現場のひっ迫だけは避けなければならないというふうに思っておりますので、県民の皆さまには、気を緩めることなく、基本的な感染防止対策を今一度徹底していただきたいというふうに思っております。

重ねてのお願いとなります。緊急事態宣言の対象区域との不要不急の往来は控えてください。緊急事態宣言ですね。もう一度申し上げますと、栃木県、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、愛知県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、福岡県でございます。それから、その対象にはなっていないまでもですね、感染拡大地域というふうになっているところ、そこの往来は慎重にしてください。感染拡大地域というふうに政府が認めているところです。北海道、宮城県、茨城県、群馬県、山梨県、長野県、静岡県、滋賀県、奈良県、岡山県、広島県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、沖縄県というふうに感染拡大地域というふうになってございますので、そこの往来は慎重にしてください。

また会食や飲食をする場合ですが、その場合は、「普段一緒にいる人と」、そして「少人数・短時間で」お願いしたいと思います。そして、飲酒を伴うカラオケは控えてください。また、県外の方との会食や飲食は控えてください。このことを今一度お願いいたします。

県としましては、今後も感染の拡大防止に全力で努めてまいりますので、県民の皆様にも、引き続きご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

私から発表が一つあります。「新型コロナワクチン接種総合企画課」を新設するということについて申し上げます。

新型コロナ感染症対策の重要な柱であります、新型コロナワクチン接種の実施に向けて、山形県新型コロナワクチン接種総合本部及び実施本部を1月19日に立ち上げたところです。

これらの本部の事務局機能を担うとともに、ワクチン接種に関して都道府県の役割とされている、ワクチン流通に係る地域の卸売業者の選定、これが一つ。それから、医療従事者等への優先接種に係る体制整備、二つ目ですね。三つ目が、専門的相談への対応。四つ目が、市町村事務に係る総合調整。こういった業務に係る総合企画などを行うため、令和3

年2月1日付けで「新型コロナワクチン接種総合企画課」を新設することといたしました。本日、人事異動の内示を行ったところです。この「新型コロナワクチン接種総合企画課」は36名体制でございます。ワクチン接種に係る業務の総合企画をはじめとする新型コロナ対策に加え、その他の感染症や薬務に関する業務を所掌することになります。

県民生活の安全・安心の確保に向けて、この新しい課を中心として、ワクチン接種の業務を含めた新型コロナ対策を、市町村と一体となって強力に推進してまいります。

このワクチン接種というのは、政府の指示のもと、市町村が実施主体となっています。県の役割は、その市町村を支援し、協力していくということになっています。それで、これからですね、担当課におきまして、定期的に市町村との会議や打合せを開催しながら、市町村を跨ぐ接種に関する広域調整や市町村での接種体制の構築に関する支援、また、市町村業務に係る補助金申請の取りまとめやさまざまな相談への対応などの業務を行うこととしております。

しっかりとですね、遅れることなく行っていく、そのためにも普通、組織改正というのは4月1日なのですけども、前倒しでしっかりと行っていくこととしたものでございます。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

河北新報の岩田と申します。よろしく申し上げます。24日投開票の知事選が終わってですね、吉村知事の4選が決まりました。4期目を迎えるにあたってですね、今回選挙戦で掲げた5本の柱の実現に向けてどう取り組んでいくか、抱負と合わせてお伺いできればと思います。

知事

はい。そうですね、選挙が終わりました、多くの県民の皆さんからご支持をいただいたというふうに受け止めております。本当に身の引き締まる思いでございます。実はですね、昨日から始まったと言いますか、令和3年度の予算編成につきましては、ようやくですね、予算編成協議ということをはじめたばかりでございます、その公約、県民の皆さんとお約束ということになりますので、それをどういうふうにかちんと実現していくかということにつきましてもね、やはり、部局の皆さんとしっかりと議論をしながら前に進めていきたいというふうに思っているところです。この選挙期間中はですね、県民の皆さんにできるだけお会いをして、そして、ずっとその5本の柱とかいった私の公約、政策について申し上げてまいりました。そのことをご支持いただいたというふうに考えておりますので、いよいよこれからそのことをどうやって実現していくかということになります。やっと始まったばかりですので、まだどこからということもちょっと申し上げられない段階でございますけれども、現在はやはり冒頭で申し上げたように、コロナ対策、

そして経済対策も両立させながらということにもなりますし、新たにですね、ワクチン接種という国家プロジェクトも入ってまいりました。そういったことをしっかりと遂行しながら、市町村と連携しながら遂行して、そして当初予算に向けてもですね、議論を始めたというところでもありますので、お約束したところをしっかりと段階的にということになるかもしれませんが、できる限り皆様のご期待に添えるように実現・実施に向けて努めてまいりたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。あと、関連してですね、知事選挙では、複数の自治体の首長さんからですね、これまでの県政運営に対する批判とかご不満というのがあったかと思えます。それに対して市町村と連携していくことは、その通りだと思うのですが、知事としてはこれまでのそういった批判については、それなりに至らない点があったとお考えなのか、それとも認識の違いでですね、これまでもしっかりとやってきたとお考えなのか、どういう受止めをされているのか、というところが1点とですね、あと今回12年ぶりの選挙戦でですね、政策論争を行う上で公開討論会の開催を期待した県民が多かったかなと思うのですが、知事の公務優先ということでお断りになって開催されなかったのですが、告示後は公務は限定的であったのかなと思うのですが、告示後でも難しかった理由は何の辺にあったのかということと、あと、こうした大型選挙でですね、今後公開討論会というのは必要だとお考えなのか、それとも街頭で主張したりとかですね、政策集を出せばですね、必ずしも必要ではないとお考えなのか、そのあたり、ちょっと長いですがよろしくお願いいたします。

知事

はい。1点目が市町村長のことでありますけれども、そうですね、何か選挙になってからいきなりそういうことが出てきたので、日頃からおっしゃっていただければ良かったかなという思いはあります。私としては、やはり市町村との連携、これはすごく大事だと思ってこれまでもやってまいりました。やりとりもしてきたという思いがあります。ですからですね、ちょっと心外なところもありましたし、誰とは申しませんが、心外だなという思いも持ちました。だから、選挙だからかなということも思いましたですね。だから、いろいろな思い、あるのですけれども、選挙は選挙でもう終わりましたので、これから先ほど申し上げました「ワクチン接種」、これはね、もう、国・県・市町村が連携しないと進まないことであります。しかも、県民の皆さんの命に関わる、健康に関わることでありますので、これはもうしっかりと連携が必要なので、連携していきましょうということを私はこれからも申し上げていきますし、いろいろなことがおありだとすればね、はっきり言ってもらって、そしてやりとり、対話ですからね、やりとりをしながらしっかりと連携して、今後もですね、県政を進めていきたいというふうに思っております。

2点目に関してですけれども、ご要望があったのは承知、聞いておりました。ですけれども、12月というのは非常に、12月に入ってからコロナの感染が増加してきてですね、もう本当にそちらのほうの対応も、毎日がそのやり取りですから、そちらのほうの対応ということでご理解いただきたいというふうに思っています。それから、告示後はですね、限られた時間の中で、県内、山形県広いんですよ。移動するだけでもすごく広く、時間がかかって、とにかく4地域のできる限りくまなく行ってですね、お会いをして話してくれとかいうようなことがやっぱり、選挙対策組織、後援会、そういったところからたくさん要望がありまして、それも回りきれなかったというところもあります。時間が、公務をやりながらもありますし、限定的ではあったかもしれませんが、やり取りは毎日やっていたし、夜遅く帰っても資料を読まなくてはいけないとかですね、本当に時間が足りなくて、体2つほしいというふうに、本当に思っていました。そんなこともあったのでご理解いただきたいと思います。公開討論そのものがね、いいとか悪いとかではなくて、平時であればね、それはあり得たかもしれないと思っていますけど、有事の時はどうなのかなという思いはあります。

アメリカのトランプさんのお二人のあれは、ニュースでちらっと拝見したりもしましたけれども、全部なんて見ませんけれども、なんかあれは本当に政策討論なのかどうかもちょっとわからないというか、ああいうのだったらどうなのかなという思いもありますし、正直言って、やっぱり平時の時だったら有効に行えるかもしれませんね、というそのくらいしかちょっと申し上げられないところですね。

☆フリー質問

記者

NHKの藤井です。同じく選挙の振り返りなのですが、政策討論会の件ですけれども、知事、山形県広いと、たくさん回りきれなかったとおっしゃるのであればですね、公開討論の場で相手候補と、対話重視ともおっしゃっていますしね、対話する形で広く政策を訴えると、いうことできたと思います。コロナであればあるほどですね、大集会に行けない有権者の方とか多かったと思いますね。そういった中で知事のお考えというのをしっかり知るといのは選挙を通してしかできないことですから、そういうのができたのじゃないかなと思います。NHKの出口調査でもですね、知事の「県政の評価」9割、「コロナ対応」も9割評価していますが、一方で「政策に対する議論は十分だったか」というのが51%「思わない」と、半分超えているわけです。そういったところは、県政評価の一方で、県民に至らなかったところかなと思いますから、その辺、政策のですね、そういった伝えるにおいて、公開討論というのをどのように考えているというのは、もうちょっと真剣な答えをいただきたいですし、また、告示後もですね、テレビ各社も個別のインタビューを申し込みましたけれども、そういったものも断り続けてこられましたし、そういったのは、県民に広く政策を伝える上では受けるべきではなかったかなと思います。その辺についてお考

えを聞かせてください。

知事

はい。記者さんのお考えはわかりました。ただ私から申し上げれば、政見放送ということをやしまして、それも各社さん回ってやって、それ1日ばかりだったんですね。それでも1日かかったということがあります。やっぱり、政見放送は、今回2人立候補したわけですけれども、2人の政見放送を各社さんで流してくださったわけですから、県民の皆さんはそれをやはりご覧になったかと思います。それは一つの大きなやはりマスコミを通しての政策、私は最初から最後まで政策を訴えましたので、それで一つはご理解していただきたいなというふうに思ったところです。それから、告示後の何かもう一つおっしゃったのは。

記者

個別のインタビュー取材です。

知事

個別のインタビュー取材。プロフィールとかそういうのでは1回お受けしましたですね。あとは政見放送で政策というものは各社さん回らせていただいたということがあります。だから何回も何回もというのはどうなのかなという思いがありますね。

記者

いや、何回も何回もおっしゃいますけど、個人演説会とか街頭演説というのは、何回も何回もしますよね。県内各地で何回も何回も訴えますよね。それと同じことだと思うのですけれども。

知事

その、県内を回るというのは、その土地に行って直に会ってということがありますので、生でお会いしてね、その人方からの何かお声を聞いたりとか、いろいろなことがありますので、その場所に行って、場所と言っても会場とかではなくて、いろんな状況ね、雪が積もっていたり、ハウスが壊れているのを見たりとか、いろんなことをやりながら県内のほとんどの場所に、全部ではないけれども、できるだけ多くのところに場所に行って、そこで住んでいる人達に話すというのは、またちょっと、言葉ではなかなか言い表せないけれども、そういうことも私は大事なことかなと思っています。都会ではそういうことが必要でないかもしれないけれども、地方と言いますか、やはりそれぞれの地域で違う条件と言いますかね、いろんな道路であつたり、また、雪の多さ少なさもある、風というものもある。いろんなものを実体験しながら回っていくというのは、私はすごく大事なことだと思います。

記者

いや、その大事さは全くわかりますよ。それを否定するわけじゃなくて、マスコミ各社のそういった条件の違ういろんな質問に対して答えるというのもまた必要でないかなと思います。それはもういいですけども。

あと、市長会の件ですけども、市長有志 8 人から、そういった、「会えない」とかですね、そういった声まであって、これは異常な事態だなと思いましたけれども、それに対して、知事は今の質問で「心外」ということで、全然、その批判に対して何も心当たりないかのような感じで、それはまた異常な感じで、どちらかが全く違うことを言っているのかなというふうに思えちゃうのですけれども、その辺は、そういった批判が出たことについては、どういった認識で、選挙目当ての、そういった「選挙目当てのこと言われているんだな」という、そういう認識でよろしいのですか。

知事

いや、最初はすごく私、びっくりしたんです。これまでずっとね、市町村との連携というところでやってきましたし、各部局もそういうふうにしてやってきた。県政ってそういうことですので。それでいきなりそういう選挙になってからそういうのが出てきたので、びっくりしたんですね。普段からやっぱり会えないなんていうことは、普段ありませんから。だから、会いに来て会えないなんていうことないわけです。ですから、本当にそこはとてもびっくりしました。そして、要望がいろいろあってね、それは全員ということではないけれども、いろいろ要望来られる方もあって、それに真摯にお答えしている、そういう方がですね、そういうことをおっしゃったというのには、本当にびっくりして、何でかなというふうに思ったくらいでして、ただ、政党であったり、何かそういったいろんな状況とかいうのもあったらしいということも聞いてはおりますけれども、でもそれは 100%私が反省しないということではなくて、できるだけ連携ということをこれからもしていきたいと思っていますけれども、あんなふうに、なぜ、かなりいろいろ言われたのは、ちょっと私としてはショックでした。

記者

はい。あと、ワクチンの、この発表された話なのですけれども、まだ国内にワクチンも入ってきていない状況で、あれですけど、こういった部分、一番の課題だと、これから調整するところ多いと思うのですけれども、特にファイザー社のものなので、かなり低い温度での保管が必要だと、外に持っていくと最大 5 日間しかもたないというのがありますし、その辺を含めて大きな課題と捉えているところはどんなところでしょうか。

知事

そうですね。情報が全部入っているということではないのですけれども、やはり県民の皆さんに周知するというのが、私は、最も大きな一つの、周知することが課題なのだと思います。「16歳以上で希望者」ということになっておりますけれども、何と云うのでしょうかね。信頼して「すぐ受けます」という方と、あと、「大丈夫なんですか？」というふうに不安に思っている方、おられると思いますので、そういったことに対する相談対応ですね、そういったこと、それは市町村の役割でもあります。一般的な相談対応は市町村であって、専門的な相談対応が県というふうになっているようではございますけれども、そういったいろんな不安に対する対応ということも大きな役割なのかなと。大きく言って、そこがやっぱり私は大事なところかなと思っています。

あとは、市町村がどういうことに対して不安をお持ちなのかとか、そういうことをね、今からも定期的に Web 会議できるわけですから、そういう方法も駆使しながら、今からもね、市町村のいろんな不安やら要望やら、そういったことを今からもお聞きして対応していったほうがいいね、ということになって、早々と立ち上げることにしたと、そういう状況なんですね。だから、県民の皆さんへの周知・相談対応、そこが一つと、やっぱり市町村とのやり取りが大事なのかなと、信頼関係と言いますかね、やっぱりそういうことをしっかりと構築しながらやっていく必要があるというふうに思っています。

あと、医療界ともどうしていくのか。医療界との連携ね、市町村・医療界との連携、ここになるのだと思っています。

記者

最後に、今、おっしゃった「16歳以上で希望者」というのは、もうこれは対象者として決まりでいいんですって。厚労省から。

知事

はい、そのように聞いているところではございますけれども、担当どうですか。

健康福祉部次長

現時点での政府からの情報では、16歳以上をまずは行うのだ、というふうに聞いてございます。

記者

朝日新聞、三宅です。私も選挙中、大内さんの陣営のほうに伺うことがよくあったのですが、そこでよく言われていたのが、発達障がい児の方ですね、初診までの時間が6か月かかりますと。それは、知事がご就任なされた12年前から1日も短くなってなくて、これはもう、知事が「道半ばである」というような表現をなされたのを捉えてです

ね、そうじゃなくて、「これはやる気の問題なんだ」というようなご批判をなさっていましたが、知事のほうの会に私も出かけたことがあって、そうすると「お医者様を育てるのに何年間かかかって、近々若干の日にちが短くなる見通しだ」みたいなことをおっしゃっておられたのですけれども、この問題についてのご認識というか、3期目くらいになってお気づきになられたとかですね、いついつまでにこれぐらい短縮できそうだとか、それを今度の新年度予算ですか、なんかで取り上げるとかですね、そのあたりのご認識がもしあればお聞かせください。

知事

はい。ずっとやはりそのことについては健康福祉部とですね、やりとりをしてきました。最初の頃はどうしてだっということで、やっぱりお医者さんいないって、じゃあ何とかして確保してというようなやりとりをずっとやってきてですね、それは山大医学部とかいろんなこともありますので、ようやくですね、今記者さんがおっしゃったような状況が整ってきたということ、今年の春ごろでしたかね、なんかちょっとようやくそっこのほうに来てもらえそうですと、お医者さんが育ててきてもらえそうだとことを聞いていたので、それをいきなり出されたのであれっとは思ったのですけれども。でも議会にもいらっしやらないから説明する間もなくですね。山形市長もそのことをなんか支持されたということでもありますけれども、その前に私に聞いてほしかったなというのが一つの思いですね。ちゃんとそこはずっと、とにかくお医者さんの確保なのだというのが分かっている、そのことについてずっと、お医者さんを育てる側とお話し合いをしてきて、春からということは聞いておりますので、これは確実に短縮になると。一気にというわけではないのですけれども、確実に短縮になるという、2年がかりぐらいで短縮になるということを担当から聞いているところです。

記者

来春から、次年度から短縮が始まるというような。

知事

そのように聞いております。

記者

ということは、だから大内さんがおっしゃっていたように、12年前から来年度の春までは縮まらなかったということについては、いろんなご事情があるかと思いますが、それは、発達障がいのお子さんを持っている親御さんにとってはですね、6か月待つというのはなかなか辛いことなのだろうなというのは察せられますしですね。

知事

そうですね。

記者

何か他に手立てがなかったのかなと思うのですけれど。

知事

そうですね。

記者

そのあたりはいかがでしょうか。

知事

はい。何とか、例えば私が市町村ミーティングをやって、最上地域で発達障がいをお持ちのお母さんからですね、山形まで行くのは大変だと、特に冬、下の子を人に預けてその上の子をですね、連れていくのすごい時間もかかるし大変だというようなこともお聞きしたことがあって、何とか最上の地域、新庄病院のところで何とかならないかとかですね、いろんなことを内部でやりとりはしていて、でもやっぱりお医者さんが確保できなくてとそこがいつもネックでした。できればね、まず療育センターで1人増えるということと、あとできれば今言った、地域から遠くまで来なくてもいろんなことがそこで対処できるようにね、そういうふうにしていければやはりいちばんいいのかなというふうには思っています。

記者

簡単に考えると、よそからお医者さんにですね、来てもらえばいいのかななどとも思うのですけれども、なかなかその辺は難しかったということなのですね。

知事

そうです。よそから来てもらうのもそのお医者さんが本当に足りなくて。だからもうお医者さんになってくれる人を県内で増やすとかね、そういうところからもうやらずにちゃいけなかったわけですから、私自身も大変、そういう点ではずっと、まどろっこしいと言いますか、非常に遅くなって申し訳ないという気持ちはありました。

記者

分かりました、ありがとうございました。

記者

荘内日報、松田です。よろしくお願ひします。酒田市の飛島に、住民宛に送られた県産米のことについてちょっと確認したいことがあるのですが、生活支援というのは非常に良いことだと思うのですけれども、ちょっと疑問に思ったのが、選挙の10日ぐらい前というちょっと微妙なタイミングで送られたのは、何と言うかどうということだったのかと。送られたほうも年明けの選挙で、この米、手付けていいのかと困惑しているという声も聞いています。その中で、その話を聞いた人が選挙前どういう意図があったのだろうと勘繰る人がいるわけなのです。せっかくのいい話に水を差すことになったのじゃないかと思うのですが、これは誰が決定して、誰が指示したのか。また知事は、この米を送ることをご存知だったのか。もしご存知だったとしたらちょっとこのタイミングでやめたほうがいいと思わなかったのか、ちょっとその辺をお聞かせいただけますか。

知事

はい。昨年の12月中旬から冬型の気圧配置が続いた、そして県内が大雪になったということは皆さんご存知だと思います。飛島でも荒れた天気が続いて、定期船のとびしまが12月14日から21日まで連続8日間欠航となりました。8日間です。22日は運航したのですが、再び23日から26日まで欠航となって、更にですね、30日から年始にかけて6日間、本当に強い寒気が流れ込んで大荒れとなって、長期欠航が見込まれていた、ということがあります。そういう中でですね、やはり大丈夫なのだろうか、防災くらし安心部、担当が考えてですね、こういうことをするというようなことで報告は受けたので、私、送ることは知っておりましたし、とてもいいことだと思っておりました。選挙と関連付けてしまうとそういうふうに見えるかもしれないけれど、選挙がなければそういうことに対して反対する方はいるのだろうかと思います。というのは孤立集落のことを考えていただければね、災害で道路が寸断されてというようなことを考えれば、航路で船が行けなくなる、ヘリコプターでも届けられないというような状況でありますから、やはり、船が運航できるという時にさっとな、支援をするというのは、私は非常に、「防災くらし安心部」というようなタイトルでもありますけれども、私は良いことだというふうに思っています。そして、大雨被害の時のことを考えていただければ、これまで床上浸水に対して災害見舞金はなかったのですけれども、昨年からはそれをお出しすることにしました。できる限りその支援策というものをね、手厚くしていこうという機運が生まれているのだというふうに思っています。それから米ですね、なぜ米かということにもなるかと思うのですけれども、米はですね、山形県沖地震の時にもお米を災害に遭われた方に少しでもというようなことで、県としてお米を届けさせていただきました。それから学生支援、このコロナになってからの学生さんにもですね、確か5キロぐらいだったと思うのですけれどもお米をですね、差し上げることにしましたら、それも大変喜ばれたというように聞いております。本当にお米の販売・消費というようなことが今ね、外食とか飲食店とかが大変な状況にあって、お米

が結構たくさんある県として、災害の時に、大変な時に、毎日食べるものですし、お送りするというのは大事なことでないかなというふうに、できればご理解をいただきたいなというふうに思っております。そのような状況です。

記者

繰り返しますけれども、今回の生活支援というのはとてもいい話だと思うのです。

知事

ありがとうございます。

記者

それだけでも、酒田市のほうに支援を持ちかけたということなのですが、酒田市のほうからちゃんと確認すれば、冬の時期は島民の方、大体酒田市街地に入ってきていて、あまり島の中にいないということなのですよ。そこで結局、公民館とか自治会館とかに米を置きっぱなしで、どうしたもんだかという困った声も聞かれていたので、そういった状況、酒田市と、先ほどおっしゃっていた市町村との連携等あれば、その辺もしっかり確認してほしかったかなというのが、私の意見です。

知事

そうですね、はい。今後についてはですね、送る前にご報告といいますか、そういうことは一報は入れたとは聞いているのですけれども、記者さんのおっしゃるようになりますね、やっぱり今後もやはり飛島の場合はあるわけですね。ずっと波が荒れてとかですね。そして昔から住んでいる方ですと2週間、1か月ぐらいの何か備蓄があるかもしれないということもあると思うのですが、お若い方々で今9人ぐらい移住されている方々もいらっしゃいますので、これからもね、移住される方もいらっしゃるかもしれないことを考えると、やはり安全安心に飛島で暮らしていけるということが大事だと思いますし、そういった観点からも、そして今記者さんのおっしゃったように連携がとても大事だと思いますので、酒田市さんとですね、やっぱり連携して、いろいろなルールと言いますか、お話をしながら、皆さんに見えるようにですね、しっかりと周知をしながら行っていければというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。以上です。

記者

共同通信、阪口です。お世話になります。まず1点目、先ほどの県の市町村会との関係

の話ですけれども、心外だとか驚いたという話があったと思うのですけれども、普段から言ってほしいという話だったと思うのですが、市町村と県との関係、法律上はもちろん対等だというのは存じ上げていますけれども、しっかりこちらが大きな予算を持っていて、それをある意味分配するような形になっていると思います。予算も権限も大きい県に対して、普段から不満があったら言ってこいよ、というのはなかなか市町村としては難しいことだと思うのです。という声があるということに対して何か抜本的に解決するような、例えば会議を設けるであるとかですね、意思疎通をどのように、具体的にどうやって改善していくかという点、解決策はありますでしょうか。

知事

今すぐ解決策はちょっとあれですけれども、ただ市長会とね、町村会がありますので。町村会のほうではそのような不満は今回はあまり出なかったと承知しておりますので、市長会となのでしょうか。どういうことができるのか、市長会のお話も伺ってみたいというふうに思います。

記者

ということは何か今後、伺って意見交流の場なりを何か設けるとそういった方向ということなのですか。

知事

意見交換の場はだって市町村会とかあるのですね、あと市長会もありますし。あと、全市町村長との会というのもあります。コロナになってからウェブでやりましたけれどもね。いろんな方法でもやれると思いますし、市町村課という課もございまして、あと総合支庁というのもありますので、いろいろと市町村とのやりとりは、体制はあるのですね。だからそこで、当方としては一生懸命連携という形でやってきたという思いはありますけれども、ご不満というようなことが今回、ただ選挙の中でなので、普段からということで、なんかそこら辺がちょっと私もよく分からないのですけれども、本当の気持ちというのもおかしな話ですけれど、ただ選挙というのがまた一つのね、違う状況だったのかなという思いは一つあります。それはそれとして、私としては目の前のこのワクチン接種、コロナ対策、これについてはもう連携なしにはやれないことでありますので、もう前向きに、前を向いてですね、しっかりと市町村の皆さんと連携してコロナを克服していきましょうというふうにしっかり申し上げていきたいというふうに思います。

記者

もう1点、すいません、知事今回、40万票を超える票を獲得されて当選されたと思います。他方で大内候補もですね、16万票という県民の票を獲得されたと思います。主張され

るところで食い違う点も何点かあると思うのですが、向こうに投票された方も県民は県民だと思いますが、その方たちとのこのコミュニケーション、意見の取入れ、どのようにお考えかをお聞かせください。

知事

全くそれは、どっちを応援したかというようなことではないと思っています。等しく県民でありますので、しっかりと、私から見てどの人がどっちに応援したっていうふうに分かりません、正直言って。投票行動で行っていただいた、それが結果に出たわけでありますので、等しく県民でありますので、県民皆さんのための県政を行っていきたいというふうに、お声をお聞きしながら行っていきたいというふうに思います。

記者

それとちょっと今回の、知事、選挙前に、PCR 検査センターを県のほうで作られるというのを発表されたと思うのですが、それでその際にわれわれもちょっと質問させていただいたのですが、費用とかそういうのも全く決まっていないという話だったのに、知事の確認団体のビラに、まだ公式の発表前に 5,000 円でやるというふうな数字が明記されていたのですが、費用は 5,000 円程度で実施するというふうに明記されていたのですが、公式の発表はたしか何もないと思うのですが。あれはどういう意図で、知事のこの確認団体ビラに 5,000 円という金額を明記されたのでしょうか。

知事

確認団体。

記者

知事をご存じないですか。

知事

ビラは見ました。ただそれは、確か 22 日に折込みしたと聞いていますので、本部会議はその数日前に行っておりますのでそこで決定したので、そこからの情報で作ったのだというふうに思います。そのように理解をしているところです。

記者

あとすいません、別件なのですが、新型コロナの、緊急事態宣言なのですが、全国の緊急事態宣言が今日の報道でもありましたけれども、来月の末まで延長されるという一部報道がありますけれども、それについて知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね。報道で私も今日、新聞を1面をちらっと見て、えっ、という感じだったのであります。延長ということでやっぱり感染状況を把握し、またしっかり止めないとまた次に少しでも残しておく、また次に数か月後にまた拡大したりするともう本当にオリンピックとかいうのに差し支えるのではないかというようなね、そういうお考えなのかなと思って、私はそのように受け止めました。ただ経済は大変だろうなという、いろいろな経済活動がですね、そのようにも思ったところがございます。やっぱり対策しながら延長なざるのかなというふうに。あとは、ちょっとそれ以上のところは私も情報もなく分からないところですけども、そういう延長の、心配というかそういうことがありそうかどうかと、経済、大変だろうなと、どうして経済対策を打ちながらでないそれは大変ことになるなという思いと、あとやはり長い目で見て、オリンピックを開催するには、やっぱりしっかりと今の時期にですね、しっかりともうゼロまで終息させないと、そういうところまで響くのかなというふうな思いで受け止めたところです。

記者

必要だとお考えということですかね。延長は長い目で見れば評価されると、そういった印象でよろしいですか。

知事

何とも言えないです、はい。

記者

すいません、日本経済新聞の浅山です。いわゆる多選の関係なのですが、普通の経営者もですね、だんだん長くなってくると本人はコミュニケーションを取っているつもりでもいろんな情報が上がってこないというのはまああるかと思えます。今のお話を伺っていますと、知事ご自身はですね、飛島の米の問題も、市町村の首長さんのご意見についても、自分はいいいことをやっているというお話で、その通りなのかもしれませんが、どうしても周りの村度であるとかですね、逆に江戸時代の側用人のようなですね、なかなか、そういう会わせないとかですね、そういったことも出てくるかもしれません。この辺のその多選の弊害についてですね、知事ご自身はこれからある意味でどういうふうにご自分を律していられる、また注意されていかれようとされているのか、もしくはそもそも自分にはそういうものはまるで心配ないのでですね、普段通りやっついこうというようなのか、その辺りはどうのご認識でしょうか。

知事

はい。そうですね、4選させていただきましても、しっかりと初心に立ち返って、

私はまた連携というものを、緊密な連携をしながらですね、県民のための県政を行っていききたいというふうに思っています。対話重視、現場主義、これはもう私の大きな基本路線でありますので、そのことをしっかりと立ち返ってですね、また気持ちを新たにして県政に取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

多選の弊害、自身については知事は何かご認識とか、やはりどうしても一般的に弊害が出るので気を付けていこうとか、そういうご認識はおありなのでしょうか。もちろん対話重視というのは当たり前のことでしょうか。

知事

もちろんね。でもやはり毎日毎日そのことに思いをいたしていくということが大事なのだと思っています。やっぱり忘れちゃうと、どうしてもおごったりもしがちなのかなと思いますので、本当にできるだけ、しっかりと対話重視、現場主義、これは忘れないで、原点に立ち返ってですね、しっかり県政を行っていききたいというふうに思っています。